

第17期定時株主総会 質疑応答概要

(2021年6月24日開催)

(事前質問 1)

Q. 国内IR参入に向けての見通しと進捗状況について教えて欲しい。

(回答：議長)

A. 先日プレスリリースで発表した通り、シンガポールでIRを実現しているゲンティン社と共に、韓国で培ったノウハウを活用することで、非常に有意義な提案ができるものと確信している。今後は、横浜市が民間事業者を選定後、国へ申請を行うこととなり、国の認可が来年になる想定で進めている状況である。

(事前質問 2)

Q. 株主優待の復活を希望する。

A. 当社サービスを利用してもらうことを目的として始めた株主優待であったが、従来の優待の利用実績や事業構造の変化等を踏まえ、株主還元の方法について見直しを行った。今後は、配当金40円を最低ラインと見越しつつ、総還元性向50%以上もしくはDOE(株主資本配当率)3%以上等、配当という形でしっかり還元していきたいと考えている。

(発言者 1)

Q. アーケードゲーム機「コード・オブ・ジョーカー」の復活を希望する。

(回答：議長)

A. 日頃より当社商品をご愛顧いただき感謝する。アーケードゲーム機はゲームセンターのオペレーターが商売のために使っているというところで、ユーザー数が減少する中でサービスを継続できなかったことを遺憾に思う。今後は本商品に限らず色々な商品でお客様に満足いただけるよう引き続き鋭意努力していきたい。

(発言者 2)

Q. 退任される夏野社外取締役に、セガサミーホールディングスにおける自身の手ごたえについて聞かせて欲しい。

(回答：夏野)

社外取締役を務めた13年間の間に、セガサミーグループは大きく業態を変えつつある。特にIR事業に関しては横浜市にRFPを提出することとなり、日本企業が今までにやったことがない事への新たな挑戦として、正にセガサミーグループらしさを発揮し、大きなステップを踏むことができたと考えている。セガは一貫してブランド力を維持しており、市場も上向き傾向である。サミーは、近年の法規制等により厳しい状況ではあるが、この13年間、安定した収益を維持してきた。今後もセガサミーグループは、新しい事業を含め、より一層ポテンシャルを活かし活躍することと考えており、OBとして応援していきたい。

(発言者 3)

Q. 国内 I R 事業で組成されたコンソーシアムの出資割合により、セガサミーホールディングスの連結決算、収益にどのような影響を与えるか教えて欲しい。

(回答：議長)

A. 我々が立ち上げたコンソーシアムの具体的な出資割合については、他の会社との守秘義務契約もあり、この場での発表は差し控えるが、本プロジェクトを進めていく中で、マジョリティでなくともより有意義な投資ができることが分かり、最大1200億円を投資する判断に至った。当該コンソーシアムにおいては、連結対象として売り上げが立つことはなく、持分法を適用し、出資割合に応じて会計上は営業外収益として計上されるということになる。

(発言者 4)

Q. 開発中のアーケードゲーム機「英傑大戦」のロケテストの状況について確認させて欲しい。

(回答：議長)

A. 過去のヒット作である「三国志大戦」、「戦国大戦」に続く、現在開発中のアーケードゲーム機「英傑大戦」について、本年6月に都内でロケテストを抽選で実施したが、当選者の94%が参加し、大変好評であった。ロケテスト結果を今後の開発に活かし、来年には本機を稼働していきたいと考えている。

(発言者 5)

Q. 遊技機の台枠簡素化を検討して欲しい。

(回答：議長)

A. 台枠の装飾に加え、重量の負担についても業界内で大きな課題として捉えており、自主規制に関する議論がまさに始まろうとしている段階にある。我々としては、「リサイクル」や「電力の省力化」等を含め、積極的に業界をリードする形で取り組んでいきたいと考えている。

(発言者 6)

Q. 「フェニックス・シーガイア・リゾート」の現状と今後の展望を教えて欲しい。

(回答：議長)

A. 「フェニックス・シーガイア・リゾート」について、新型コロナウイルスの影響による売上減少に伴い、前期は黒字化できなかったものの、単体での利益創出が見込まれる段階まで回復傾向にあり、今後、新型コロナウイルスが収束したのち、リバウンド需要で復活するものと考えている。大規模な統合型リゾートとしての運営ノウハウは「パラダイスシティ」でも活かされており、今後の国内 I R 運営を視野に、更なるノウハウの蓄積を行っていく。

以上